

# 御経塚遺跡の玉飾り

## ～縄文のアクセサリー～

御経塚遺跡からは石や土で作られた装飾品がたくさん出土しています。とくに石を磨<sup>みが</sup>いて作る『玉』はバラエティに富んでおり、これほど様々な種類の玉類が1つの縄文時代の遺跡からみつかることは珍しいといえるでしょう。

石製の装飾品は垂飾<sup>たれかざり</sup>が46点、玉（勾玉<sup>まがたま</sup>・白玉<sup>うすだま</sup>・丸玉<sup>まるだま</sup>・長玉<sup>ながたま</sup>）が53点の計99点、土製の装飾品は垂飾が5点、玉類が2点、耳飾りが12点の計19点が見つかっています。

石の玉類の材料には、ヒスイ、石英<sup>せきえい</sup>、蛇紋岩<sup>じゃもんがん</sup>、滑石<sup>かつせき</sup>、蠟石<sup>ろう</sup>、頁岩<sup>いし</sup>など様々な種類が使用されています。

### 御経塚遺跡でみつかった玉類の石

材は新潟県姫川の上流で採れる硬玉<sup>こうぎよく</sup>

（ヒスイなど）が全体の約50%を占め、次いで蛇紋岩、滑石、蠟石、頁岩など軟らかい石が約20%を占めています。また、数点ですが、九州地方で採れるクロム白雲母<sup>しろうんも</sup>（軟らかく、色は灰色・褐色・緑色と多様）を使って作られた勾玉や長玉もみつかっています。

